研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
令和８年10月30日発行 No.183

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

特別支援教育コーディネーター研修会　　令和８年７月22日（水）実施

点から線へ　－特別支援教育コーディネーターの役割と実践－

講師：高知大学　髙橋　由子　助教



特別支援教育の理念

自己理解、セルフアドボカシー、ライフスキル等を踏まえて課題を整理する「線で見る力」が大切です。

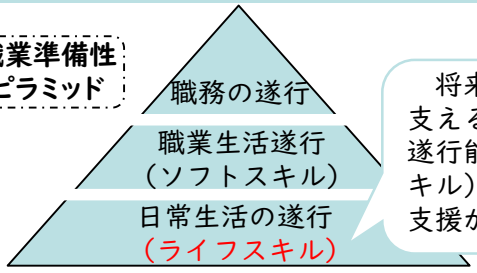
特別支援教育とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

今の課題だけでなく、「少し先」の視点で見る

特別支援教育は、共生社会の形成の基礎となる重要な教育だよ。



職業準備性ピラミッド



将来の社会参加を支える、日常生活の遂行能力（ライフスキル）獲得のための支援が必要

適切な支援を行うため、特別支援教育コーディネーターには次のような資質・技能が求められる

〈理解する力〉
- カウンセリングマインド
- アセスメントの技能
- 特別支援教育に関する知識　等

〈つなぐ力〉
- 情報収集・活用の技能
- ファシリテーション技能
- 人間関係を調整する力　等

基本スキル
① セルフケアスキル
② 時間管理スキル
③ 金銭管理スキル
④ 移動スキル
⑤ コミュニケーションスキル
⑥ 余暇スキル

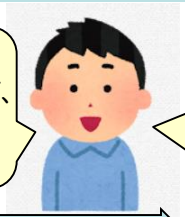
サブスキル
① 対人行動スキル
② 自己抑制スキル
③ 健康管理スキル
④ 感覚対処スキル
⑤ 日常行動スキル
⑥ 危機管理スキル

ライフスキルにもたくさんの種類があるね。それぞれのスキルの詳細についても、調べて確認してみよう。



自己理解からセルフアドボカシーへ

僕は、○○は得意だけど、△△することは苦手



・　必要な支援を要請できる
・　困っていることが相談できる

〈自己理解〉→〈セルフアドボカシー〉

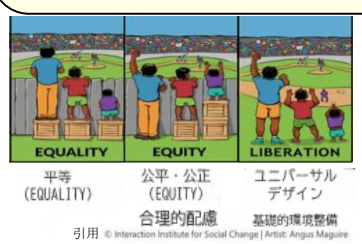
自己理解を促しながら、適切に援助要請ができるように支援していく



特別支援教育コーディネーターを中心に、子どもの将来を見据え、支援体制がつながるような「点から線」の視点を大切にしよう。

合理的配慮と基礎的環境整備

障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの



バリアを無くす基礎的環境整備を行いながら、個に応じた合理的配慮を提供できるようにする

【受講者の感想】
- 特別支援教育では目の前の課題だけでなく、「少し先」を見据えた長期的な視点で支援を考えることの重要性を学んだ。特に、自己理解や援助要請、セルフアドボカシー、ライフスキルは、日々の教育活動の積み重ねによって育まれることを改めて認識できた。
- ライフスキル支援の観点を職業準備性ピラミッドで見て、改めて支援の観点と段階を整理することができた。どの生徒にも発達段階に応じた合理的配慮を考えて支援・対応に当たりたい。

令和８年度　児童生徒理解基礎講座　　令和８年７月30日（木）実施

研修　「行き渋りを見逃さない！ウェルビーイングを高める不登校予防の実践」
講師：瀬戸内ナーシング学院　岡田　倫代　学校長

ウェルビーイング（Well-being）とは

・　身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
・　多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態



子どものウェルビーイングを支える上で、見逃してはいけないサインがあります。

○　個人へのアプローチで児童生徒の気持ちを知り、個人面接につなぐ

二つのアセスメントお助けツールを活用し、個人へアプローチする。

子ども自身が誰とつながっているかを客観的にとらえ、SOSを出せる人を把握する。

「子どもの交友関係チェックシート」

「からだ」と「こころ」の状態をお天気イラストで表現する。雨や嵐の状態が続いている場合は、特に気にかけ本人と話す。

「気持ちお天気チェックシート」

アセスメントお助けツールを活用した後の面接方法（必要に応じて専門機関につなぐ）

【第１段階】「子どもをほめるだけ面接」
子どもの話をひたすら聴き、子どもをほめ、自分の良いところに気付かせる。
その中で、子どものいつもと違うサインを見逃さず、適切なアセスメントに結び付ける。

【第２段階】「子どもへのお願い面接」
第１段階と同じ要領＋教師から行動変容に関するお願いを伝える。

【第３段階】「子どもへの追加お願い面接」
第２段階で伝えたお願いが叶えられているか検証＋教師から追加のお願い



面接の実施時期は、学年初めや夏休み、冬休み明けがおすすめ！

○　「児童生徒の行き渋りチェックシート」でサインを把握

気になることを見える化

・　児童生徒の様子で当てはまる項目をチェックし、その項目の数によって対応を決める。
・　シート内の【対応ステップ】に沿って、適切な対応をしていく。
・　友人関係や心理面で気になる児童生徒がいた場合、二つのアセスメントお助けツールを活用する。

「児童生徒の行き渋りチェックシート」

不登校予防の六つのポイント

①　行き渋り・遅刻増加・保健室登校などの早期サインの把握
②　「この先生なら大丈夫」と思ってもらえる安心できる関係づくり
③　役割・承認・小さな達成で成功体験の保障
④　分からない・不安といった学習のつまずきへの対応
⑤　気になることや、欠席が続いたら、保護者との早期連携
⑥　校内支援会議の早期開催「担任一人で抱え込まない」

児童生徒のサインを見逃さず、早期対応を心がけよう。



【受講者の感想】
・　子どもの「いつもと違う」様子に早く気付くことができるように、コミュニケーションを大切にし、話の内容、表情、その子を取り巻く友達との関わりなどに視点を向けて関わりたい。また、早期発見と未然防止に力を入れ、子どもの困り感に気付き、支えになれる指導を長期的に心がけたい。
・　不登校を予防するためには、子どもをよく観察し、チームとして対応するなど、「この子は、いつもと様子が違うな」と思った違和感を他の先生方と共有することが大切だと学んだ。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。